

6. 平和公園(西地区)の特性

(1) 立地特性

- 平和公園は、南北の都市軸上の長崎駅の北約 2.5km に位置しており、国道 206 号を挟んで西地区と東地区とに分かれている。
- 西側には、被爆遺構である「旧城山国民学校校舎」が位置し、平和公園西地区を東西方向に走る市道松山町線は、東地区と同校舎とを結ぶ歩行者動線となっている。
- 平和公園の南側では、民間による「長崎スタジアムシティ」が開業し、そこに隣接する中部下水処理場は令和 5 年度末をもって機能停止した。
- 平和公園の西側約 4.0km には、「長崎市総合運動公園」が位置しており、平和公園とともに、本市のスポーツ振興を支えている。
- 平和祈念像から稲佐山を望むとともに、長崎空港から全国・世界へ平和を発信することを意図した「平和交流軸」が位置付けられている。

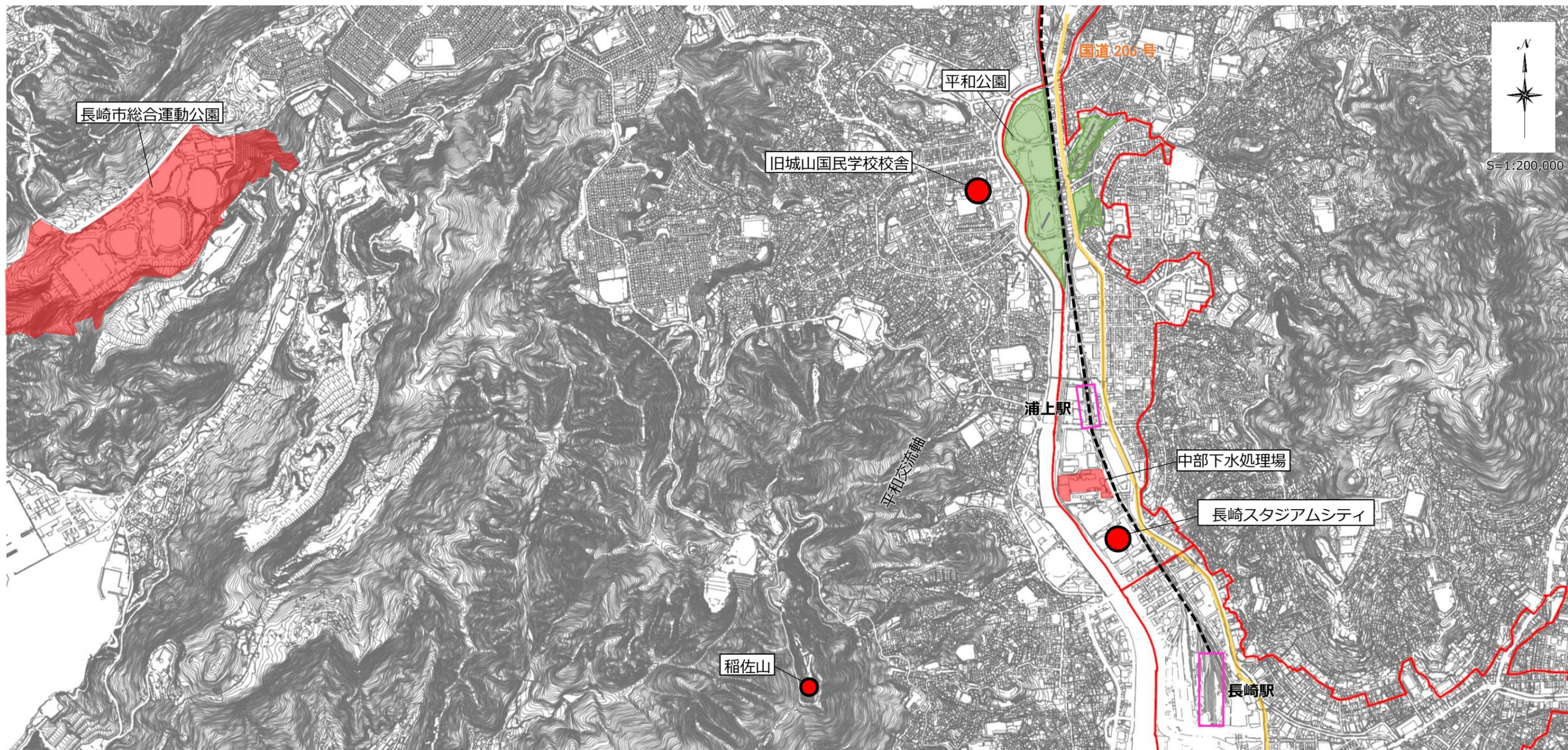


図-26 平和公園の立地

- 長崎市の総合公園（9箇所）や運動公園（1箇所）のうち、市街化区域に立地する総合公園は、平和公園、長崎東公園、香焼総合公園の3公園のみであり、市街地における貴重なオープンスペースとなっている。
- 平和公園の西地区は、近隣商業地域（建蔽率80%、容積率400%）に指定されており、後背には住居系土地利用が広がっている。
- 平和公園周辺では、路線バスや路面電車が高頻度で運行しており、公共交通の利便性が高い場所である。



図-4 (再掲) 総合公園・運動公園の立地

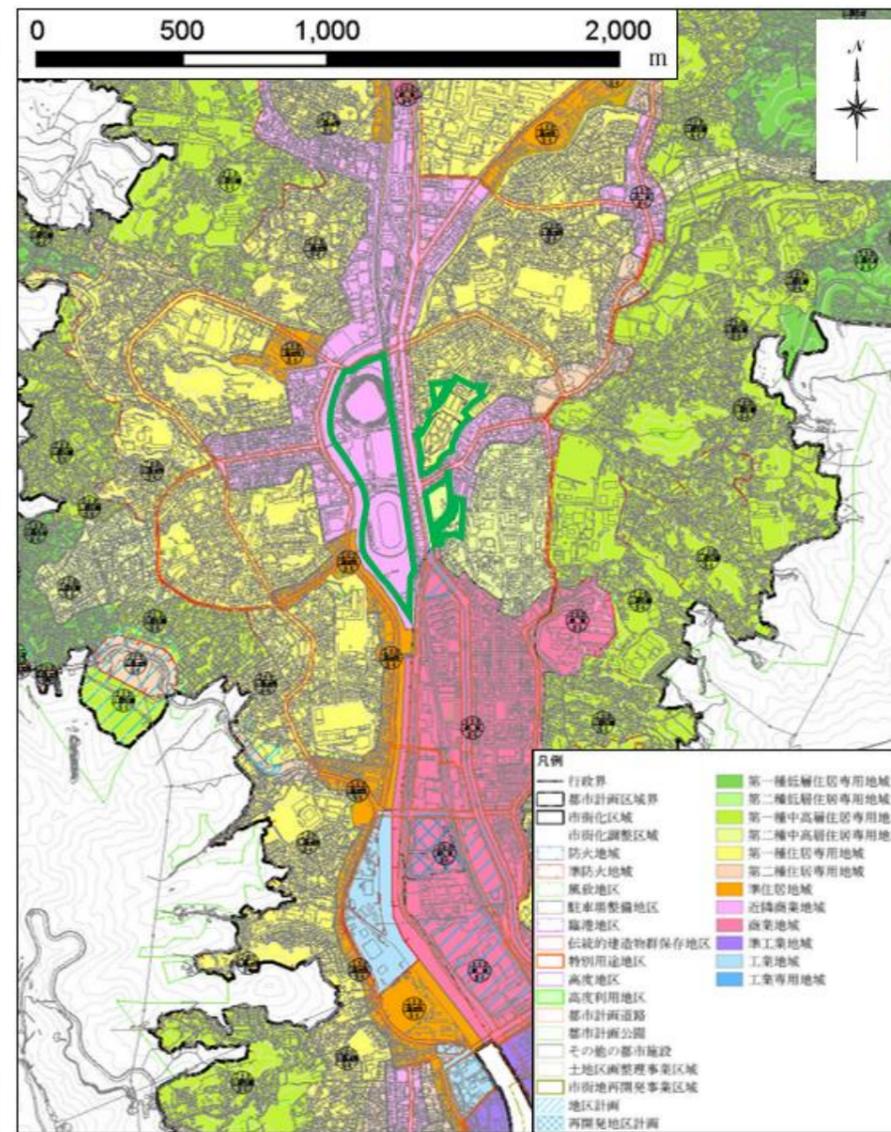


図-6 (再掲) 用途地域

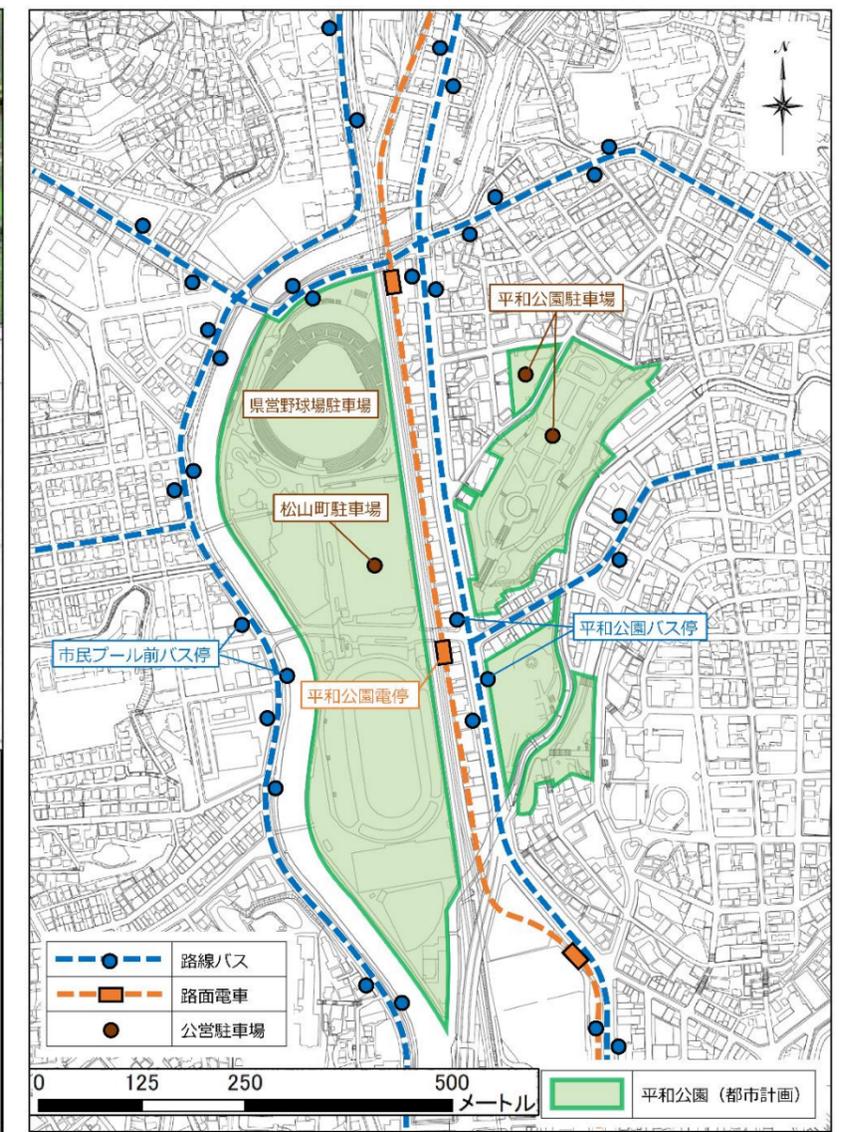


図-9 (再掲) 平和公園周辺の公共交通機関

(2) 敷地特性

- 東側はJ R高架施設、西側は二級河川浦上川に面する細長い敷地形状を有している。
- 中央付近で市道松山町線が東西方向に走り、西地区を南北に分断している。
- 国道 202 号から市道松山町線へ至るルートが西地区へのメイン動線となるが、それ以外にも周辺からアクセスが可能な出入口が点在している。



図-27 平和公園の敷地特性

(3) 利用特性・施設特性

- 令和元年度（コロナ禍以前）の利用者数は、「庭球場（159千人）」、「市民総合プール（145千人）」、「県営野球場（131千人）」の順に多い。
- 経年的に見ると、7施設中5施設が減少傾向にある（増加傾向の施設は「県営野球場」と「陸上競技場」）。
- ソフトボール場以外の施設は、各世代に万遍なく利用されている（ソフトボール場は主に社会人の利用）。

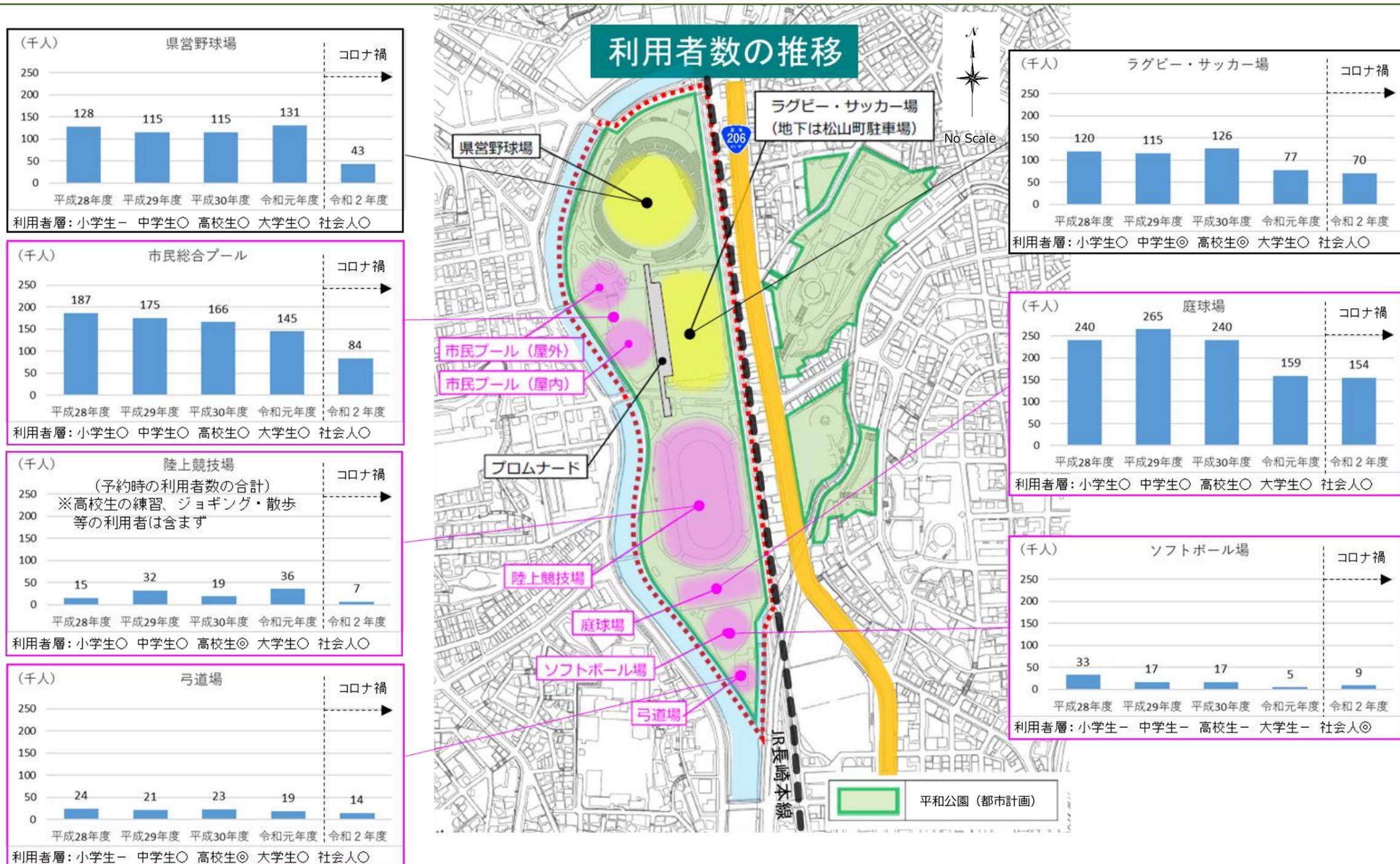


図-28 平和公園（西地区）の利用推移

■主な大会等（令和元年度）

平和公園西地区の各施設では、**全国から市レベルの大会が実施**されている。

※H26 長崎国体の会場：県営野球場、市民総合プール、庭球場

※H15 全国高等学校体育大会の会場：県営野球場、市民総合プール

陸上競技場では、各種団体の運動会やスポーツ大会などの**イベントに幅広く利用**されている。

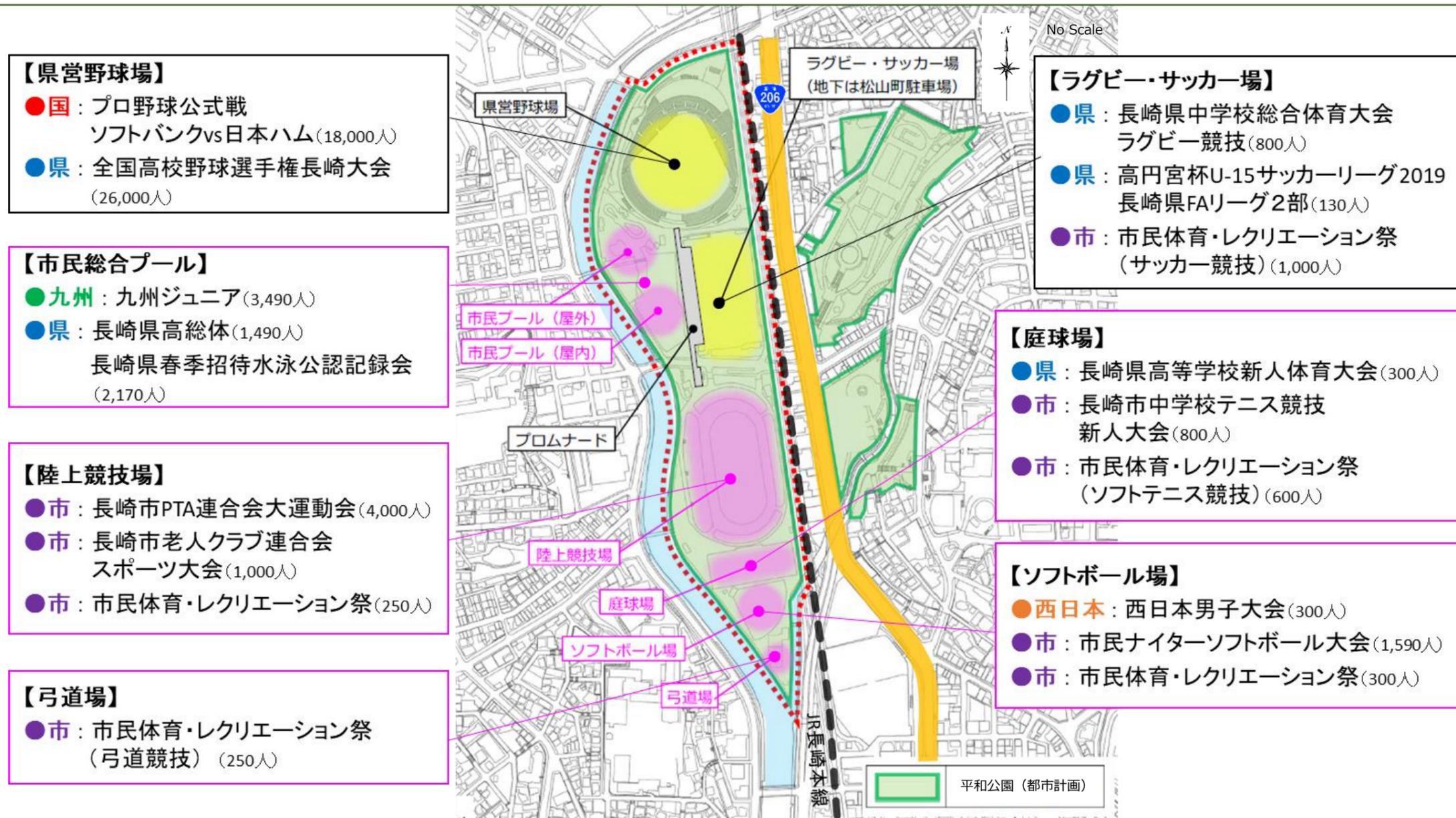
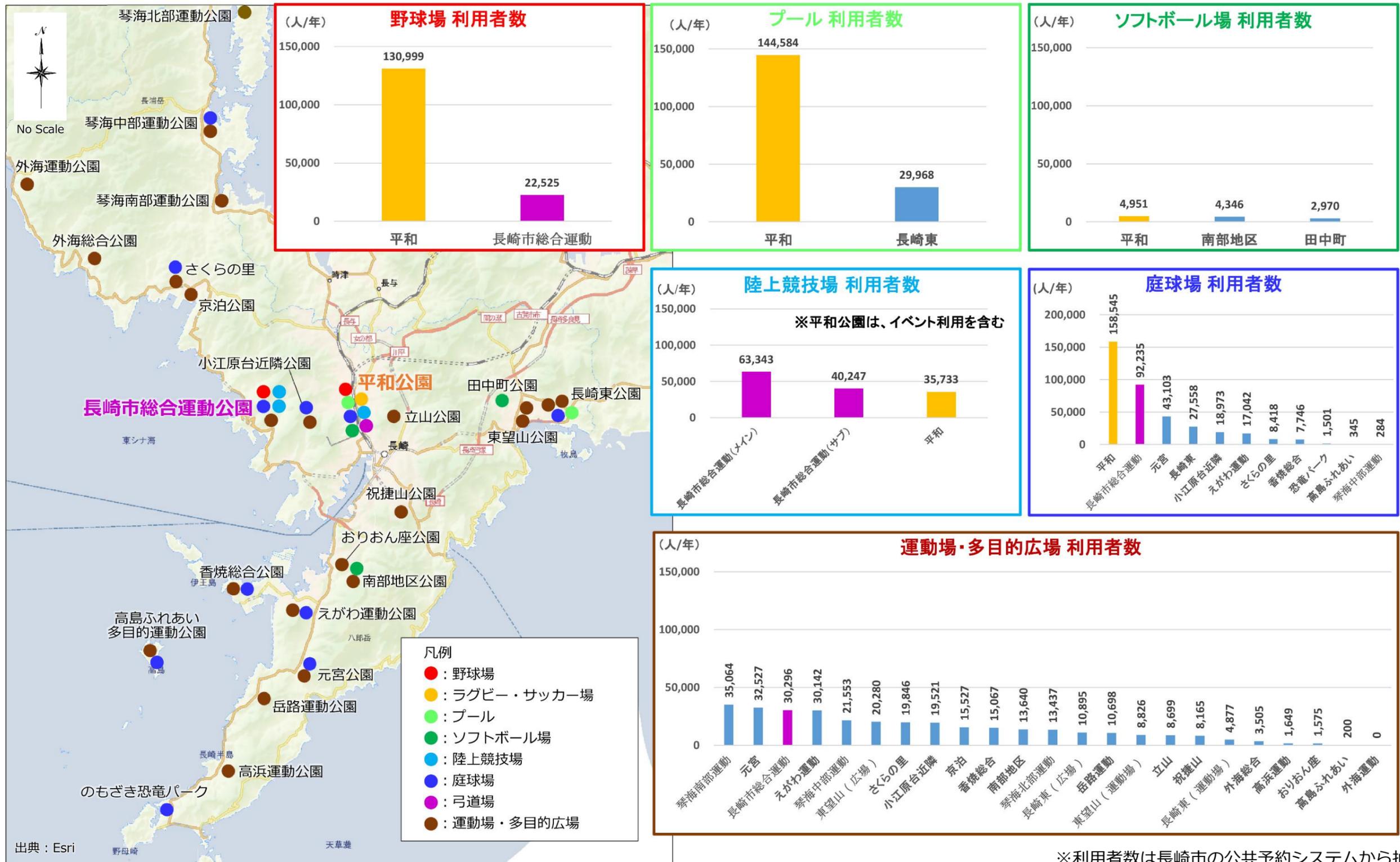


図-29 平和公園（西地区）で開催される大会等

■市内の他の運動施設との利用者数の比較（令和元年）

- 平和公園西地区と市内の運動施設の利用者数を比較すると、野球場や庭球場、プールなどの運動施設の利用者数は、平和公園が多い。



※利用者数は長崎市の公共予約システムから抽出

図-30 市内運動施設の利用状況

■施設の経過年数等

- 令和6年度末現在、ソフトボール場（照明設備、グラウンド）は39年、市民総合プール（屋内・屋外）は29年、庭球場（屋根）は13年、弓道場は増築から10年経過している。
- 市民プール（屋外）は、6月から9月までの利用に限定されている。



市民総合プール（屋内）

平成8年10月設置
（令和6年度末現在29年経過）



市民総合プール（屋外）

平成8年10月設置
（令和6年度末現在29年経過）
※利用期間：6月～9月



ソフトボール場

【照明設備、グラウンド】
昭和61年3月設置（改修）
（令和6年度末現在39年経過）



庭球場【屋根】

平成24年3月設置
（令和6年度末現在13年経過）



弓道場

【増築（審判棟、トイレ等）】
平成27年2月増築
（令和6年度末現在10年経過）



陸上競技場

・「競技練習等利用施設」として、学生の練習やジョキング・ウォーキング等の健康増進のための運動など多目的に利用されている。
※主に利用している高校
長崎西高校、長崎北高校、純心女子高校、長崎南山高校、瓊浦高校

■松山町駐車場の利用状況

- 令和元年度は、1日当たり約350台利用されている（平日：344台、土日祝日：371台）。
- スポーツ大会等が開催される場合は、ほぼ満車状態である。
- 駐車時間が2時間を超える場合は定額料金（620円）が設定されているため、平日はパークアンドライド駐車場としての利用も見受けられる。

■施設概要

区分	供用開始	営業時間	収容台数(台)	
			普通車	バス
地上	H9.11	0:00～24:00	46	10
地下	H9.11	7:30～22:00	246	0

■1日平均駐車台数（年別）

区分	H28	H29	H30	R元	R2
普通車(台/日)	379	375	376	352	311
バス(台/日)	2	2	2	2	1



駐車場入口



駐車場内

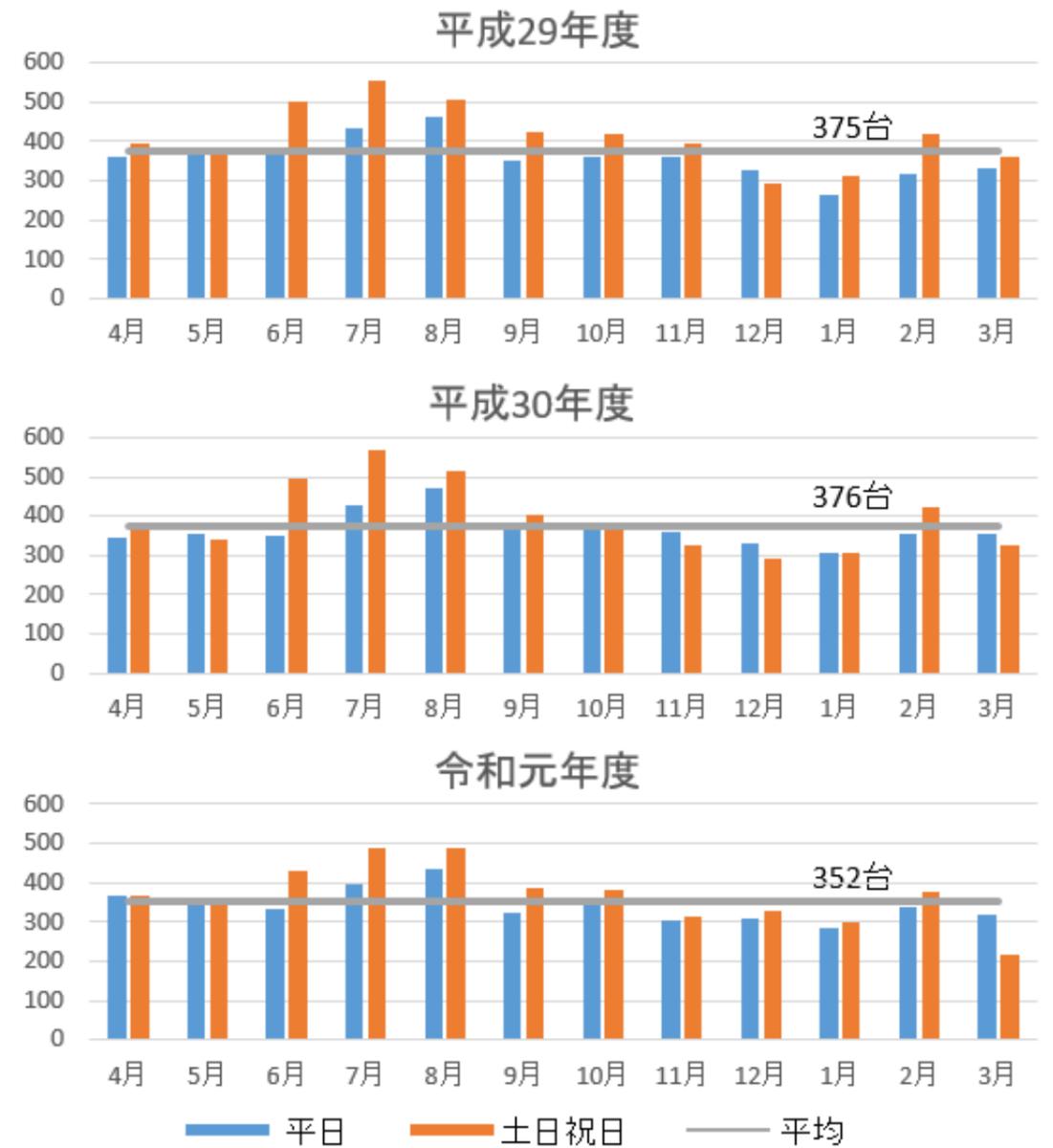
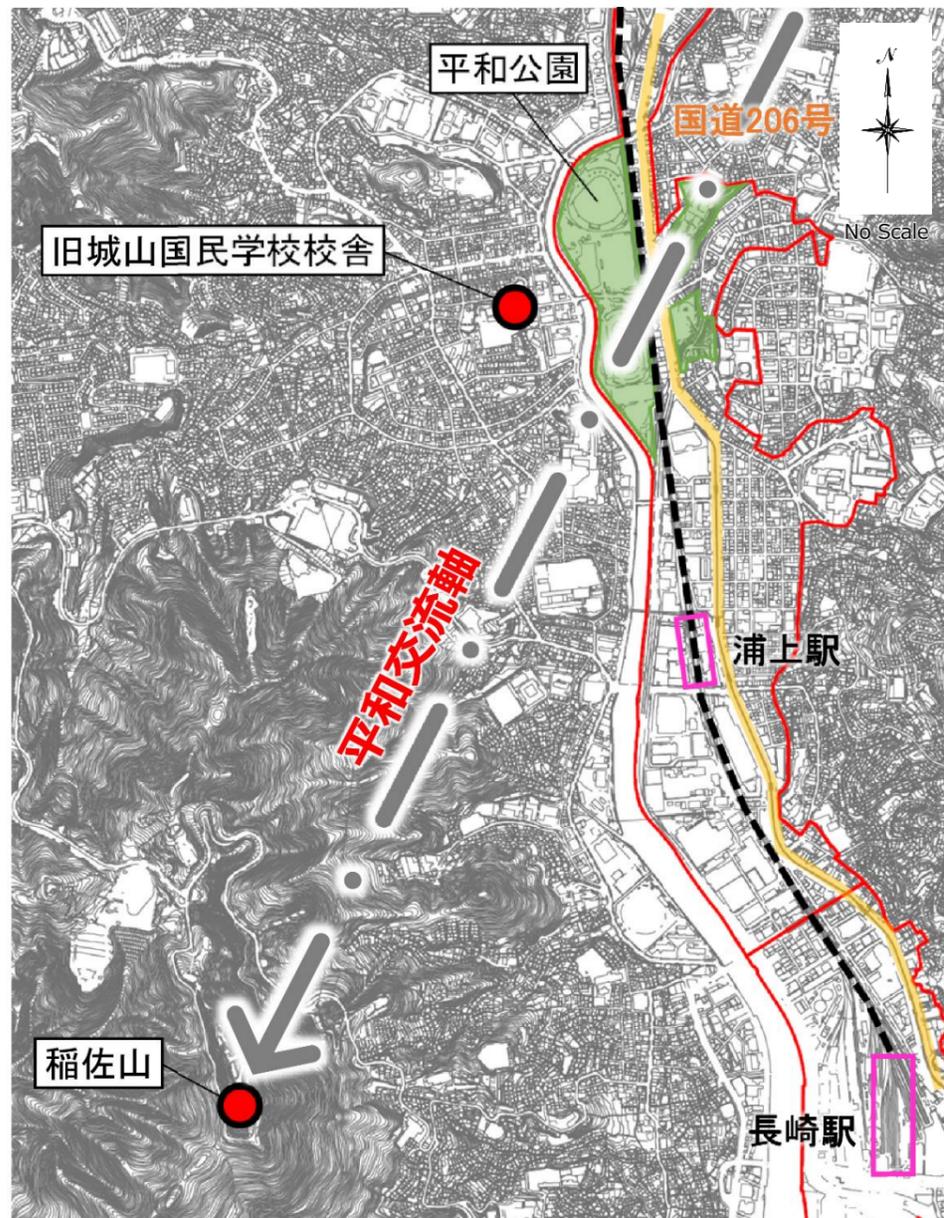


図-3-1 1日平均駐車台数（月別）

(4) 景観特性



平和交流軸

「平和交流」の場が、平和公園から浦上地区、長崎市、そして海外へと広がっていくよう、稲佐山公園と長崎空港を結んで象徴的に形づくる。

(平成6年「平和公園再整備基本計画」により位置づけ)



平和公園から稲佐山に向けて「平和交流軸」が形成されている。



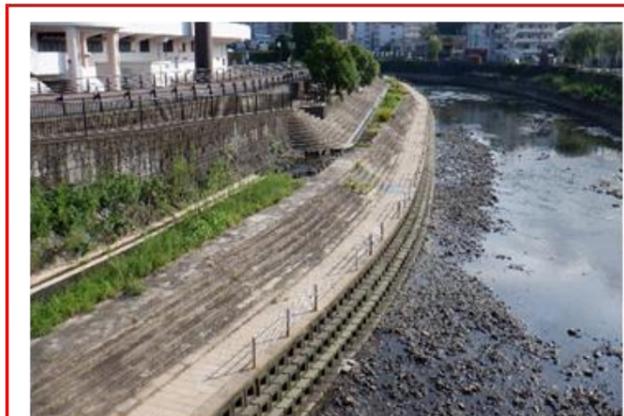
西地区の中央部に位置する市道松山町線は緑あふれる歩行者動線を形成



旧城山国民学校校舎からは、西地区の入口付近の緑が視認できる。

平和公園地区景観形成重点地区（稲佐山眺望ゾーン）
・高さ規制：約20m以下

図-32 平和交流軸と高さ規制



浦上川沿いでは潤いのある河川空間が形成されている。



西地区の北側は、大規模施設が密集しており、圧迫感が感じられる。



プロムナードは、コンクリートなどから構成されており、人工的な印象が強い。



西地区エントランス部は、建築物やJR高架により閉塞感が感じられる。



平和公園電停付近からは、西地区は見えにくくエントランスの視認性が悪い。



市道松山町線を跨ぐプロムナードにより山並みはほぼ隠れている。

図-33 平和公園周辺の景観実態

■「平和公園（西地区）の特性」のまとめ

<p>①立地特性</p> <ul style="list-style-type: none"> •南北の都市軸上に立地し、周辺には住居系土地利用が広がっている。 •市内の総合公園・運動公園のうち、市街地に立地する数少ない総合公園であり、貴重なオープンスペースとなっている。 •路線バスや路面電車が高頻度で運行しており、公共交通の利便性が高い。 	<p>②敷地特性</p> <ul style="list-style-type: none"> •東側はJ R高架施設、西側は二級河川浦上川に面する細長い敷地形状を有している。 •中央付近で市道松山町線が東西方向に走り、西地区を南北に分断している。 •国道 202 号からが西地区へのメイン動線となるが、それ以外にもアクセスが可能な出入口が点在している。
<p>③利用特性・施設特性</p> <ul style="list-style-type: none"> •庭球場、市民総合プール、県営野球場の利用者が多く、ソフトボール場の利用者が最も少ない。 •各施設で、県・市レベルの大会やイベントが開催されている。 •ソフトボール場以外の施設は、各世代に万遍なく利用されている。 •陸上競技場は多目的に利用されているが、陸上の練習場所として使用している主な高校は4校である。 •市民総合プール（屋外）は、6月から9月の利用に限定されている。 •令和6年度末現在、ソフトボール場（照明設備等）は39年、市民プール（屋内・屋外）は29年、庭球場（屋根）は13年、弓道場は増築から10年経過している。 •松山町駐車場は、スポーツ施設で大会等が開催される場合は、ほぼ満車状態である。 	<p>④景観特性</p> <ul style="list-style-type: none"> •景観形成重点地区に指定されており、高さ基準が設けられている。 •平和公園から稲佐山に向けて「平和交流軸」が形成されている。 •西地区を東西方向に走る市道は、東西間さらには旧城山国民学校とを結ぶ歩行者動線として緑あふれる歩行空間を形成している。 •東側のエントランス部は建築物やJR高架施設により閉塞感が感じられる。 •西側は浦上川に面し開かれた空間を形成している。 •市道より北側は、大規模施設が密集し、圧迫感のある空間となっている。 •市道より南側の陸上競技場とその周辺は、緑が感じられ、憩える空間となっている。 •陸上競技場東側のJ R高架下空間が有効活用されていない。